

文部科学省

多様な新ニーズに対応する

がん専門医療人材「がんプロフェッショナル」養成プラン

ACTIVITY REPORT 2019 2020

がん最適化医療を 実現する医療人育成

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY
公立大学法人 横浜市立大学

はじめに

| | |
|--|----|
| 1 横浜市立大学多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成 プラン運営組織 | 1 |
| 2 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの概要 | 3 |
| 3 横浜市立大学がんプロ授業科目/ E - ラーニングについて | 4 |
| 4 Next Generation Oncologist養成コースの教育内容 | 5 |
| 5 次世代オンコロジー医療スタッフ」養成インテンシブプログラムの教育内容 医科学インテンシブプログラム 看護学インテンシブプログラム | 6 |
| 6 横浜市立大学キャンサーボードについて | 7 |
| 7 キャンサーボード 難治がん、進行がん / 地域連携カンファレンス | 9 |
| 8 横浜市大がんプロホームページ/ がんプロ全国E-ラーニングクラウド | 11 |
| 9 連携大学の教育コース・合同セミナーについて | 14 |
| 10 がんプロ大学院生研究発表会 | 15 |
| 11 全国がんプロ協議会について | 15 |
| 12 横浜市立大学 がんプロ公開セミナー | 16 |
| 13 文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」 養成プラン 進捗状況報告書（中間評価） | 27 |

**多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プランコーディネーター委員長
公立大学法人横浜市立大学大学院医学研究科 がん総合医科学 主任教授**

市川 靖史

今日、新型コロナウイルスパンデミックの感染拡大が世界中に一気に広がり、まだまだ収束の兆しが見いだせない状況にあります。世界が一つに結ばれ、人類1人ひとりの自覚と責任が問われることで21世紀グローバリゼーションへと変化していきました。

一方、科学技術の飛躍的な進展、情報通信技術（ICT）の進化により、グローバルな環境において第5期科学技術基本計画においては、日本が目指すべき未来社会の姿として政府は、これまでの狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムによって経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society5.0）を提唱しています。われわれは、環境・経済・社会のシステムが、相互に関連し合っていることに留意し、物質エネルギーと精神エネルギーを融合し、個人と人類が一体化となる調和した社会を目指す時が来たのです。

われわれはこれまでの13年間、がんの先端的医療イノベーション人材養成としてトータルなものの考え方にに基づき、多様性の個の生き方、持続発展教育、グローバル化の人材養成の三本柱を中心に「トータル・オブ・システム」を打ち出してきました。今回、われわれは第3期「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」の推進を通して、サステナブル・スーパー・プロフェッショナルの人材養成として緩和医療と多職種教育・均霑化教育を実践し、がん診療連携拠点病院と地域の病院、大学、医療関係者、患者などが他者を思い自立的に個の責任ある生き方を全うできるように、すべては多様性の中で一つにつながっているという価値観を通して、お互いに寄り添い、理解し合いながら持続可能な取組を推進しています。

私たちは多様性の中の一部であることをはっきり認識して、お互いに共存共生したつながりの中で共に生きる、共に励まし合い、寄り添い、癒し合い、生命の尊厳として善なる心とつながり、新しい緩和として持続可能な社会を今こそ目指して行かなければなりません。

2017年に決定された「第3期がん対策推進基本計画」により、新たなニーズとして、がんゲノム医療の推進、希少がんや小児がんへの対応、AYA(Adolescent and Young Adult)世代や高齢者等のライフステージに応じたがん対策が求められており、文部科学省第3期「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」が実施され全国の大学を対象とする事業のうち、11拠点（81大学）が連携してAll-Japan体制で推進されています。その一つとして、横浜市立大学・東京大学（主幹）・東邦大学、自治医科大学・北里大学・東京都立大学が申請したプログラム「がん最適化医療を実現する医療人育成」を実施しています。

われわれは先端的医療イノベーション人材養成の具体的な取組としてキャンサーボード、多職種連携教育、プロフェッショナルリズム教育、がん診療の均霑化、地域のがん診療の質向上の教育を「トータル・オブ・システム」に基づき実施してきました。また連携大学による先駆的な大学の教育基盤を遠隔同時中継による合同セミナーを通して共有してきました。本学では、2020年

8月5日、第31回本学がんプロ合同セミナー「がんサバイバーと共に歩む」と題し、ZOOMによる6連携大学とのオンラインセミナーを開催し65名が参加しました。高度化・複雑化を増す医療現場にあって高度実践看護師（Advanced Practice Nurse）の第1人者である北里大学病院 緩和ケアセンター・がん看護専門看護師の近藤まゆみ先生より、がんであってもより豊かな人生が歩めるように患者、医療関係者の役割についてご講演頂きました。また、本学附属病院・がん看護専門看護師の畑千秋氏より本学附属病院での総合的取組としてがんサバイバー支援の紹介を頂きました。2020年9月11日に、第32回本学がんプロ合同セミナー「Precision Medicine 2020: Predictive biomarker を探せ」と題し、ロズウェールパーク癌研究所乳腺外科主任教授、ニューヨーク州立大学バッファロー校腫瘍外科兼任教授の高部和明先生を招聘しZOOMによる米国とのオンラインセミナーを開催し58名が参加しました。バイオインフォマティクスの手法を用いた網羅的解析による研究についてご講演頂きました。さらに2020年12月14日に第33回本学がんプロ合同セミナー「がんゲノム医療の現況と展望」と題し、国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野 ユニット長の高阪真路先生を招聘しZOOMによる6連携大学とのオンラインセミナーを開催し67名が参加しました。がんゲノム医療情報を集約・管理し、利活用の推進を図るがんゲノム情報管理センター（C-CAT）について、がん遺伝子変異のハイスループット機能解析法（MANO 法）についてご講演頂きました。

市民公開講座では、「放射線最新医療機器に関する市民公開講座（横浜市立大学放射線科/湘南鎌倉総合病院放射線腫瘍科）」、「神経内分泌腫瘍医療セミナー最新NEN治療（PRRT）とゲノム医療」について本学がんプロホームページにYouTubeとして公開し広く情報発信しております。

我が国は、高齢化により医療ニーズが大きく変化する中で、地域における医療・介護の総合的なとらえ方が大きな課題となっており、その中で、病院と在宅の医療連携、地域での多職種連携の必要性が挙げられています。国は高齢者の尊厳の保持と自立生活支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

本学では、2020年10月7日、第9回がん地域連携カンファレンス「病院から在宅へー介護・医療ニーズが高いがん終末期患者を支える地域連携について」ZOOMによるオンラインセミナーを実施し52名が参加しました。講演内容として概論「病院から在宅へ」は、田中百合子氏（本学附属病院患者サポートセンター看護師）、講演1「看護小規模多機能型居宅介護サービスを利用したがん終末期患者について 実態と課題」は、加藤幸子氏（（有）在宅ナースの会看護統括責任者 複合型サービスふくふく寺前管理者看護師）、講演2「がん終末期患者に対する療養通所介護について 実態と課題」は、植田 浩美氏（あったか訪問看護ステーション 代表取締役 看護師・介護支援専門員）、講演3「在宅療養が困難ながん終末期患者の療養場所として 施設紹介」は、斉藤純一氏（株式会社アンビスホールディングス ICT 対策本部 看護介護部 地域連携部 看護師）にご発表いただきました。一人一人が調和した精神をもって協力していくことが地域連携、多職種教育、均霑化教育につながってきました。2021年2月3日、第10回がん地域連携カンファレンス「AYA世代におけるがん患者・家族の療養を支え、病院と地域の連携を考えるー予後宣

告後、本人・家族の意向に沿って在宅看取りができた患者の事例から学ぶ」ZOOM によるオンラインセミナーを実施し 68 名が参加しました。演者は、本学附属病院からは退院・在宅療養支援看護師の八ッ橋こずえ氏、ソーシャルワーカーの布川のぞみ氏、外科外来看護師の齋藤薫氏、蜂巢志乃氏、がん専門看護師 緩和ケアセンタージェネラルマネージャーの畑千秋氏、地域からはみらい在宅クリニック院長の林茂也先生、洋光台訪問看護ステーション 看護師の丹野恵美氏にご発表いただき、多職種の役割が生かされ連携された事例でした。

現在、高齢化により医療ニーズが大きく変化するなかで、「トータル・オブ・システム」に基づき、地域連携における緩和ケアと多職種教育、均霑化教育を行うことができました。

私たちは多様性のなかの一部であることをはっきり認識して、お互いに共存共生したつながりのなかで共に生きる、生命の尊厳、新しい緩和として自らが他と調和した社会を目指し多様性の次世代未来を築いていきます。サステイナブル・スーパー・プロフェッショナルの人材養成は、自他融合的価値観として「トータル・オブ・システム」の広がりが調和教育として多様性の責任ある個人の生き方、持続発展教育、グローバル社会のあり方につながり、地域連携、生命の尊厳性、緩和医療等、より広がりのある社会を目指しイニシアティブが実地されています。

2021 年 2 月 21 日

横浜市立大学多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」
養成プラン 運営組織

(がんプロ運営企画委員一覧)

2021年3月現在

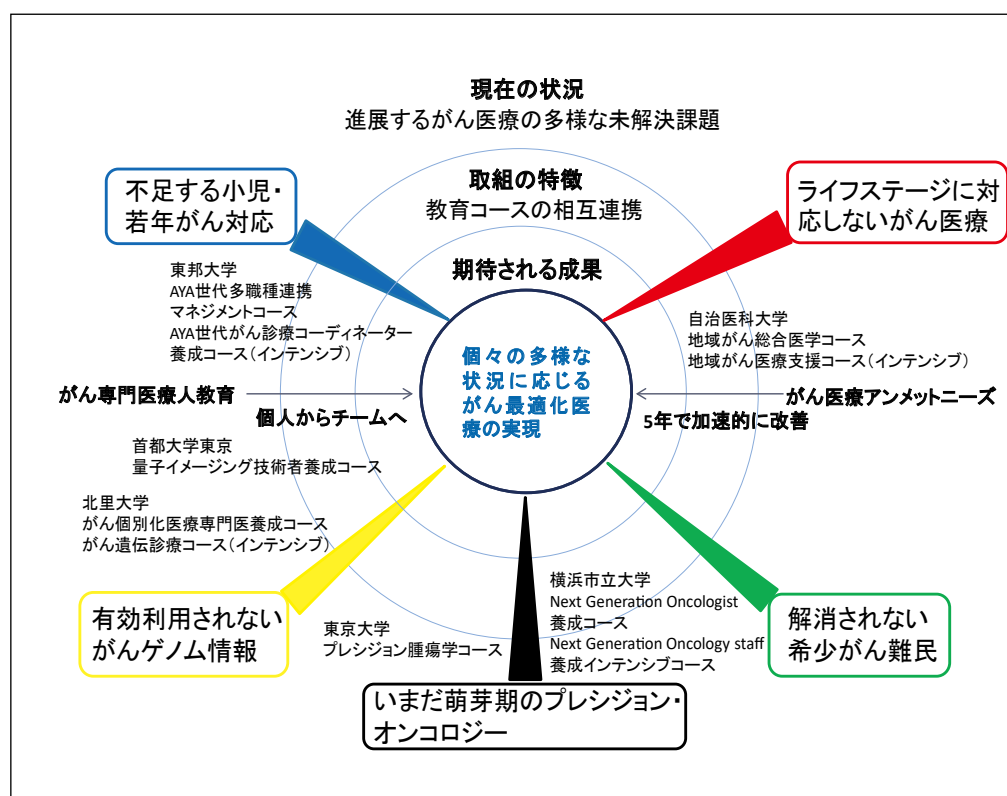
| | | |
|-----------------------------------|------------------------------|--------|
| 事業総括（事業責任者） | 医学研究科長 | 田村 智彦 |
| がんプロ運営企画委員長 | 附属病院長 | 後藤 隆久 |
| 実務コーディネーター委員 | 副学長 | 遠藤 格 |
| 事業推進プロジェクトリーダー | 医学部長 | 益田 宗孝 |
| 事業推進プロジェクトサブリーダー | 看護学科長 | 叶谷 由佳 |
| 事業推進プロジェクトサブリーダー | 看護学専攻長 | 赤瀬 智子 |
| 実務コーディネーター委員長 | 医学研究科 医学科 がん総合医科学 主任教授 | 市川 靖史 |
| 実務コーディネーター委員 | 医学研究科 医学科 小児科学 主任教授 | 伊藤 秀一 |
| 実務コーディネーター委員 | 医学研究科 医学科 放射線治療学 主任教授 | 幡多 政治 |
| | 医学研究科 医学科 放射線診断学 教授 | 宇都宮 大輔 |
| 実務コーディネーター委員 | 医学研究科 看護学科 がん看護学 教授 | 渡邊 眞理 |
| | 医学研究科 看護学科 先端成人看護学 教授 | 千葉 由美 |
| 実務コーディネーター委員 | 医学研究科 医学科 遺伝学 主任教授 | 松本 直通 |
| | 医学研究科 医学科 運動器病態学 主任教授 | 稲葉 裕 |
| | 附属病院 一般外科 診療教授 | 利野 靖 |
| | 医学研究科 医学科 血液・免疫・感染症内科学 主任教授 | 中島 秀明 |
| | 医学研究科 医学科 消化器内科学 主任教授 | 前田 慎 |
| 実務コーディネーター委員 | 医学研究科 医学科 肝胆膵消化器病学 主任教授 | 中島 淳 |
| | 医学研究科 医学科 呼吸器病学 主任教授 | 金子 猛 |
| | 医学研究科 医学科 口腔外科学 主任教授 | 光藤 健司 |
| | 医学研究科 医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 主任教授 | 折館 伸彦 |
| | 医学研究科 医学科 産婦人科学 主任教授 | 宮城 悦子 |
| | 医学研究科 医学科 泌尿器科学 主任教授 | 矢尾 正祐 |
| | 医学研究科 医学科 形成外科学 主任教授 | 前川 二郎 |
| | 医学研究科 医学科 精神医学 主任教授 | 菱本 明豊 |
| | 医学研究科 医学科 循環器・腎臓・高血圧内科学 主任教授 | 田村 功一 |
| | 医学研究科 医学科 内分泌・糖尿病内科学 主任教授 | 寺内 康夫 |
| | 医学研究科 医学科 神経内科学・脳卒中医学 主任教授 | 田中 章景 |
| | 医学研究科 医学科 救急医学 主任教授 | 竹内 一郎 |
| | 医学研究科 医学科 眼科学 主任教授 | 水木 信久 |
| | 医学研究科 医学科 視覚再生外科学 主任教授 | 門之園 一明 |
| | 医学研究科 医学科 リハビリテーション科学 主任教授 | 中村 健 |
| | 医学研究科 医学科 脳神経外科学 主任教授 | 山本 哲哉 |
| | 医学研究科 医学科 病態病理学 主任教授 | 大橋 健一 |
| | 医学研究科 医学科 分子病理学 主任教授 | 藤井 誠志 |
| | 医学研究科 医学科 医学教育学 主任教授 | 稲森 正彦 |
| | 医学研究科 医学科 臨床統計学 主任教授 | 山中 竹春 |
| | 附属病院 病理部 准教授 | 山中 正二 |
| 実務コーディネーター委員 教育・実習コーディネーター（総括） | 医学研究科 医学科 放射線治療学 特任准教授 | 岡野 泰子 |

| | | |
|------|--------------------------|-------|
| 学務担当 | 医学教育推進課長 | 竹内 紀充 |
| | 医学教育推進課 学務・教務担当係長 | 山口 浩 |
| | 医学教育推進課 学務・教務担当係長 | 穴戸 隆康 |
| | 医学教育推進課 大学院医学研究科 医科学専攻担当 | 森田 陽子 |
| | 医学教育推進課 大学院医学研究科 看護学専攻担当 | 藤本 裕子 |
| 事務担当 | 医学研究科 医学科 がん総合医科学 | 川副 真紀 |

(学内体制、連携)

附属病院長をトップとしたがんプロ運営企画委員会を設置。大学全体の取組として推進を図る。また具体的なプログラムの運営・推進については、実務コーディネーター委員会によりスピード感を持って取り組んでいく。

近年のめざましい医学の進歩は、がん医療に新たな技術革新をもたらしていますが、その一方で、それらが医療現場で個々の多様な状況に応じて適切に実践されているとは言い難く、それに対する社会からの改善要望も増大しています。本事業では、このようながん医療の課題を解決するために、人材不足が顕在化しつつあるゲノム医療、希少がんおよび小児がん医療、ライフステージ対応がん対策について、これらの各領域で既に先駆的な取組を行っている6大学が、その基盤を活用して、全国のモデルを形成すべく、大学連携教育を発展させます。それとともに、これら以外の新たなアンメットニーズに対応できる能力を有する人材も育成していきます。これらの取組においては、多職種連携によるチーム医療を基本とするとともに、医療全体を俯瞰できる能力の涵養も重視し、多様かつ複雑ながん専門診療が一人一人の個々の状況に応じて最適化される、全人的医療の実現を目指していきます。



2018年4月からは、新たに医学研究科博士課程を対象とした「Next Generation Oncologist 養成コース」、多職種を養成する「次世代オンコロジー医療スタッフ」養成インテンシブプログラムとして「医科学インテンシブプログラム」「看護学インテンシブプログラム」を実施しています。本コースは、多職種が一同に学べる共通必修科目（先端のがん臨床研修、臨床腫瘍学概論、腫瘍放射線医学概論、ゲノム医学）をカリキュラムに取り入れています。また新設講義として2018年度よりゲノム医学を設置しました。

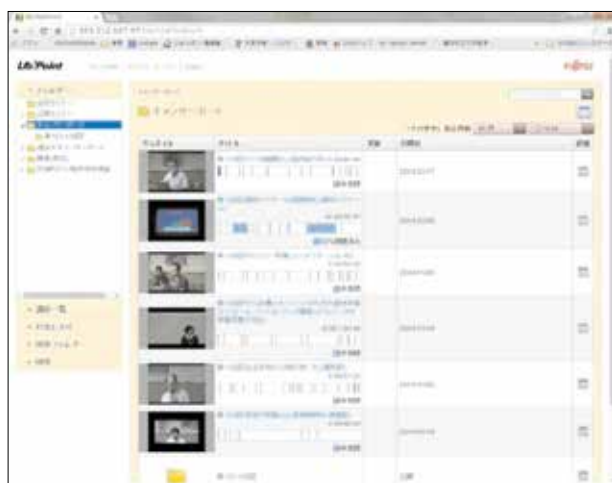
| 授業形態 | 授業 | 博士課程 | | 「次世代オンコロジー医療スタッフ」養成インテンシブプログラム | |
|-------|----------------------|-------------------|----------------------------------|--------------------------------|----------------|
| | | 先端のがん治療専門医療人養成コース | Next Generation Oncologist 養成コース | 医科学インテンシブプログラム | 看護学インテンシブプログラム |
| 講義・演習 | 先端のがん臨床研修※ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 実習 | がん薬物療法実習 | ○ | ○ | | |
| 実習 | 放射線治療実習 | ○ | ○ | | |
| 実習 | 緩和ケア実習 | ○ | ○ | | |
| | | 7単位 | 7単位 | がんプロ特論Ⅱ(2単位) | 2単位 |
| 講義 | 臨床腫瘍学概論ⅡB※ | ○2単位 | ○2単位 | がんプロ特論Ⅰ○1単位 | がん共通特別演習○1単位 |
| 講義 | 腫瘍放射線医学概論※ | ○2単位 | ○2単位 | | |
| 講義 | ゲノム医学※ | △ | ○2単位 | がんプロ特論Ⅱ○2単位 | がん共通特論Ⅱ○1単位 |
| 講義 | 大学院医学セミナー | ○2単位 | ○1単位 | | |
| 講義 | 生命倫理セミナー | ○1単位 | ○1単位 | | |
| 講義 | 臨床研究入門I | △ | ○1単位 | がんプロ特論Ⅰ○1単位 | 臨床研究概論○1単位 |
| 講義 | がん共通特論Ⅰ(看護) | | | | ○1単位 |
| 講義 | 臨床倫理ワークショップ | ○1単位 | | | |
| 講義 | プロフェッショナリズム教育ワークショップ | ○1単位 | | | |
| 実習 | 特別研究 | ○10単位 | ○10単位 | | |
| 合計 | | 30単位 | 30単位 | 6単位 | 6単位 |

※はE-learningも一部対応

○:必修, △:選択

E-ラーニングについて

コースの教育内容はe-learningによってシステム化されがん医療に関する最新の知識や技術について学ぶことができます。



学内のE-ラーニング

ID・パスワードを入力し、ログインする
⇒ 視聴後、課題レポートを提出する

本コースは、がん治療を通して多職種連携を推進し、最先端の治療技術を提供できると共に、グローバルに活躍できるプロフェッショナルなリーダーとなる人材育成を目指しております。

Next Generation Oncologist養成コースの教育内容 博士課程

養成する人材像

がん診療の主流となるprecision medicineの概念・方法を知り臨床に応用できる医師を養成する。遺伝子診療の社会医学的、倫理的問題にも対応可能な医師を育成する。様々な希少がんの診療にも対応可能な医療者を育成する。小児がん専門家の育成に力を入れ、AYA世代のがん診療をチームを通して行うことが出来る医師を育成する。最先端の放射線治療であるRI内用療法を熟知し、臨床的に応用可能な医療者を育てる。

以下の必修科目16単位、選択科目4単位、特別研究10単位、計30単位が学位取得に必要な単位となります。

| | 科目名 | 授業形態 | 単位 |
|------|-------------|-------|---------|
| 必修 | 先端的がん臨床研修 | 演習・実習 | 7 |
| | 臨床腫瘍学概論ⅡB | 講義 | 2 |
| | 腫瘍放射線医学概論 | 講義 | 2 |
| | ゲノム医学 | 講義 | 2 |
| | 生命倫理セミナー | 講義 | 1 |
| | 大学院医学セミナーⅡA | 講義 | 1 |
| | 臨床研究入門1 | 講義 | 1 |
| 選択 | その他選択科目 | 講義 | 4単位以上選択 |
| 特別研究 | 特別研究 | | 10 |
| | | | 30単位分 |

| 年度 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 合計 |
|------|------|------|------|------|----|
| 目標人数 | 5 | 5 | 5 | 5 | 20 |
| 受入実績 | 5 | 5 | 5 | — | 15 |

養成する人材像

「次世代オンコロジー医療スタッフ」とはがんの遺伝子情報をはじめとするバイオインフォマティクスを有効に活用することでPrecision Medicineを実現し、最先端医療を希少がんや小児、AYA世代のがん患者にも提供することを可能にする医療スタッフです。

- 1) 遺伝子情報のがんの治療にいかにかに使うか
- 2) 難解な遺伝子の検査結果をどのように患者に伝えるか
- 3) 遺伝子の検査がもたらす倫理的、社会医学的問題にどう対処するか
- 4) 専門家が少ない希少がん患者や小児がん患者、AYA世代患者とその家族に、
Precision Medicineの恩恵をいかに届けるか
という次世代のがん医療に興味のある医療スタッフの学習の場を提供します。

【医科学インテンシブプログラム】

| | 科目名 | 授業形態 | 単位 |
|----|--------------------|------|----|
| 必修 | がんプロ特論Ⅱ(先端のがん臨床研修) | 実習 | 2 |
| | がんプロ特論Ⅰ(臨床腫瘍学概論ⅡB) | 講義 | 1 |
| | がんプロ特論Ⅱ(ゲノム医学) | 講義 | 2 |
| | がんプロ特論Ⅰ(臨床研究入門1) | 講義 | 1 |
| | 6単位分 | | |

【履修対象者】

医師、看護師、薬剤師、後期研修医、
横浜市立大学医学研究科医科学 専攻大学院生 等

【看護学インテンシブプログラム】

| | 科目名 | 授業形態 | 単位 |
|----|----------|------|----|
| 必修 | がん共通特論Ⅰ | 講義 | 1 |
| | がん共通特論Ⅱ | 講義 | 1 |
| | がん共通特別演習 | 演習 | 1 |
| | がん共通特別実習 | 実習 | 2 |
| | 臨床研究概論 | 講義 | 1 |
| | 6単位分 | | |

【履修対象者】

看護師、横浜市立大学医学研究科看護学専攻大学院生 等

医科学・看護学インテンシブプログラム

| 年度 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 合計 |
|------|------|------|------|------|----|
| 目標人数 | 8 | 8 | 8 | 8 | 32 |
| 受入実績 | 5 | 9 | 5 | — | 14 |

本学のキャンサーボードでは、大学と附属病院が連携し、がん専門医療人育成のための院内の教育・診療体制として、また、緩和ケアチーム、外来化学療法室、各科がん診療チームおよび放射線科のがん診療・治療グループ、看護部、薬剤部、病理部、検査部、患者サポートセンターの各担当などが横断的につながり、骨転移・希少がん・難治がんなどの症例検討を実施してきました。また、Cancer Ground Roundsの場として各診療科の最新のがん治療についての講義を実施し大学と大学病院との横断的連携の推進に貢献しています。

キャンサーボードは、毎月2回（第1水曜日、第3火曜日）横浜市立大学附属病院4F第1会議室またはZOOMオンライン（2020年度より開始）において実施しております。また、外部医療機関に対しても公開し（2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み学内のみ公開）院内のがん診療の充実と地域のがん診療の均霑化を図ることを目的としています。



2019年度 キャンサーボード

| 回 | 開催日 | 内容 | 担当科 | 担当者 | 参加人数 |
|-----|------------|---|---|-------------------------|------------------|
| 217 | 2019/04/16 | 第27回骨転移キャンサーボード | がん総合医科学 主任教授 | 市川 靖史 | 23名 |
| 218 | 2019/05/21 | 重粒子線治療の概要 先進医療から保険診療へ | 神奈川県立がんセンター放射線治療科部長 (重粒子線治療部門) | 加藤 弘之 | 61名 |
| 219 | 2019/06/05 | 新規の遺伝子検査に関して(MSI検査など) | 遺伝子診療科 講師 | 浜之上 はるか | 33名 |
| 220 | 2019/07/03 | チームで行うACP(アドバンス・ケア・プランニング) | がん看護学 教授 横浜市立市民病院 がん看護専門看護師 | 渡邊 真理 小迫 富美恵 他 | 120名 |
| 221 | 2019/08/07 | 第28回骨転移キャンサーボード | がん総合医科学 主任教授 | 市川 靖史 | 29名 |
| 222 | 2019/09/04 | 免疫チェックポイント阻害薬モニタリング委員会 (年報) | 化学療法センター 長 | 後藤 歩 | 20名 |
| 223 | 2019/09/17 | 当院で承認された化学療法プロトコルに関する 考察 | 附属病院 薬剤部 | 太田 一郎 | 21名 |
| 224 | 2019/10/02 | 第7回地域連携キャンサーボード「嚥下機能障害 のある患者の希望を支える地域連携」 | 附属病院 患者サポートセンター 河合耳鼻咽喉科医院院長/横浜市耳鼻咽喉 科医学会/金沢区三師会嚥下在宅チーム 委員長/横浜市立大学非常勤講師 | 館脇美由紀・ 河合 敏他 | 66名 |
| 225 | 2019/10/15 | 第29回骨転移キャンサーボード | がん総合医科学 教授 | 市川 靖史 | 21名 |
| 226 | 2019/11/06 | 妊孕性温存外来 | 生殖医療センター 担当部長 | 村瀬 真理子 | 22名 |
| 227 | 2019/11/13 | 持続可能な最新のがん緩和医療 | カナダ・アルバータ大学 腫瘍学・緩和ケア医 療部門 教授 | シャロン・ワ タナベ 樽見 葉子他 | 34名 |
| 228 | 2019/12/04 | がん遺伝子診断外来報告 | がんゲノム診断科 講師 | 加藤 真吾 | 25名 |
| 229 | 2019/12/17 | 第30回骨転移キャンサーボード(年次報告) | 整形外科 助教 放射線治療学 講師 | 川端 佑介 小池 泉 | 17名 |
| 230 | 2020/01/21 | 2019年 化学療法センター報告 | 化学療法センター長 | 後藤 歩 | 18名 |
| 231 | 2020/02/05 | 第8回地域連携キャンサーボード「病状の受容過 程のがん終末期患者と家族を支える地域連携」 | 附属病院 患者サポートセンター みらい在宅クリニック理事長/本院院長他 | 横山 美智 沖田 将人他 | 71名 |
| 232 | 2020/02/18 | 開催中止 | | | |
| 233 | 2020/03/04 | 緩和ケアセンター報告 | 緩和ケアセンター | 結束 貴臣 | e-learning 配信 |

2020 年度 キャンサーボード

| 回 | 開催日 | 内容 | 担当科 | 担当者 | 場所 | 参加人数 |
|-----|------------|--|--|------------------------|------------|------|
| 235 | 2020/05/19 | 第31回骨転移キャンサーボード | がん総合医科学 主任教授 | 市川 靖史 | e-learning | — |
| 236 | 2020/06/03 | がん診療と遺伝診療 | 遺伝子診療科・認定遺伝カウンセラー | 稲田 千秋 | e-learning | — |
| 237 | 2020/06/16 | がん治療における口腔ケアの重要性 | 歯科・口腔外科・矯正歯科 診療教授 | 来生 知 | e-learning | — |
| 238 | 2020/07/02 | 神奈川県立がんセンターにおける遺伝子パネル検査の現状と課題 | 神奈川県立がんセンター がんゲノム診療センター診断・治療検討室室長、がんゲノム診療科 | 廣島 幸彦 | Zoom | 34名 |
| 239 | 2020/07/21 | 第32回骨転移キャンサーボード | がん総合医科学 准教授 | 小林 規俊 | Zoom | 12名 |
| 240 | 2020/08/05 | がんサバイバーと共に歩む | 北里大学病院緩和ケアセンター がん看護専門看護師 | 近藤 まゆみ | Zoom | 65名 |
| 241 | 2020/09/02 | 免疫チェックポイント阻害薬(ICI)モニタリング委員会(年報) | 免疫チェックポイントモニタリング委員会委員長, 化学療法センター長 | 堀田 信之 | Zoom | 20名 |
| 242 | 2020/09/15 | がん化学療法と薬物動態学 2020年版 | 薬剤部 | 太田 一郎 | Zoom | 26名 |
| 243 | 2020/10/07 | 第9回がん地域連携キャンサーボード「病院から在宅へ 介護・医療ニーズが高い癌終末期患者を支える地域との連携について」 | 附属病院 患者サポートセンター(有)在宅ナースの会看護統括責任者 複合型サービスふくふく寺前管理者 看護師他 | 西野実和・田中百合子・加藤幸子他 | Zoom | 52名 |
| 244 | 2020/10/20 | 前立腺に生じた特殊ながんの遺伝子パネル検査の結果とその解釈について | がんゲノム診断科担当部長 | 加藤 真吾 | Zoom | 21名 |
| 245 | 2020/11/04 | 妊孕性温存治療 | 生殖医療センター担当部長 | 村瀬真理子 | Zoom | 24名 |
| 246 | 2020/12/02 | 横浜市立大学における遺伝子パネル検査と今後の展望 | がんゲノム診断科担当部長 | 加藤 真吾 | Zoom | 30名 |
| 247 | 2020/12/15 | 第33回骨転移キャンサーボード(年次報告) | 放射線治療学講師 整形外科講師 | 小池泉・竹山 昌伸 | Zoom | 20名 |
| 248 | 2021/01/19 | 化学療法センター報告 | 化学療法センター長 | 堀田 信之 | Zoom | 22名 |
| 249 | 2021/02/03 | 第10回がん地域連携キャンサーボード「AYA世代におけるがん患者・家族の療養を支え病院と地域の連携を考える」 | 附属病院 患者サポートセンター みらい在宅クリニック 洋光台訪問看護ステーション他 | 西野実和・ハッ橋こずえ・布川のぞみ・斉藤薫他 | Zoom | 68名 |
| 250 | 2021/03/03 | 緩和ケアセンター報告 | 緩和診療科 助教 | 結束 貴臣 | Zoom | 28名 |
| 251 | 2021/03/16 | キャンサーボード年間総括 | がん総合医科学 主任教授 | 市川 靖史 | Zoom | 18名 |



第241回キャンサーボード ZOOMオンライン開催(2020/9/2)



第245回キャンサーボードの様子 ZOOMオンライン開催(2020/11/4)

キャンサーボードでは、原発不明癌、多発骨転移の症例、骨外Ewing腫瘍と考えられる症例など問題となったいくつかの難治がん、進行がんについてがん関連の複数の診療科と多職種がん専門医療スタッフとともに話し合いの機会をつくり、患者の状況に最適化された治療法について検討を行っており、大学全体の横断的連携の推進、がんプロ学生の教育の推進に努めています。

| 開催日 | 内 容 | 担当科 | |
|----------------------------------|---------------------------------------|---------|-----------------|
| 2019年6月4日 | 腹腔内 carcinosarcomaの1例 | がん総合医科学 | 症例検討会 |
| 2019年8月7日 2019年10月15日 | 骨転移キャンサーボード | がん総合医科学 | 症例検討会 |
| 2020年3月24日 5月11日, 5月27日, 8月7日 | 緊急キャンサーボード | がん総合医科学 | 症例検討会 Zoom開催 |
| 2020年7月21日 | 腓神経内分泌腫瘍の症例 | がん総合医科学 | Zoom開催 |
| 2020年10月20日 | 前立腺に生じた特殊ながんの遺伝子パネル 検査の結果とその解釈について | がん総合医科学 | Zoom開催 |

キャンサーボード 地域連携カンファレンス

がん患者の事例を通し、診療所の医師、ケアマネジャー、地域包括担当者と大学医師、看護師などの医療関係者が集い各専門家の支援の役割について考え、大学間・地域の医療機関との連携を深めています。

| 開催日 | 症例 | | 参加人数 |
|-----------|---|---|------|
| 2015/7/21 | 横浜市立大学からご依頼した膵癌の患者さんの在宅ケアと看取りに関するカンファレンス | 演 者: 小林 規俊(横浜市立大学附属病院 臨床腫瘍科 講師) 千場 純(三輪医院 院長) 事例提供者: 清田 みゆき(横浜市立大学附属病院 看護師) 発 言 者: 赤塚 恵美子(聖ヨゼフ訪問看護ステーション 看護師) 渡邊 貴子(聖ヨゼフ訪問看護ステーション 看護師) | 54名 |
| 2016/2/2 | 現在大学病院に通院しながら地域の看護多機能施設、地域薬剤師の力を借りて、在宅治療を続けている患者さんに関するカンファレンス | 演 者: 後藤 歩(横浜市立大学附属病院 臨床腫瘍科 講師) 事例提供者: 清田 みゆき(横浜市立大学附属病院 看護師) 発 言 者: 沖田 将人(みらい在宅クリニック 院長) 奈良 健(サン薬局在宅薬物治療支援部 部長, 薬剤師) 森 麻美子(サン薬局 薬剤師) 小菅 清子(複合型サービスふくふく寺前 管理者, 看護師) | 76名 |
| 2016/7/19 | ご自身の療養の他に、認知症を発症した家族の介護を必要としているがん患者さんの地域包括ケアシステムのあり方に関するカンファレンス | 事 例 紹 介: 佐藤 高光(横浜市立大学附属病院 肝胆膵消化器病学 指導診療医) 土井 宏(横浜市立大学医学部 神経内科学 准教授) 事例提供者: 長田 智香(横浜市立大学附属病院化学療法センター 看護師) 清田 みゆき(横浜市立大学附属病院 福祉・継続相談室 看護師) 山田 朋樹(樹診療所 院長) 発 言 者: 小林 由美子(居宅介護支援事業管理者 担当ケアマネジャー) 加山 久美子(横浜市港南中央地域ケアプラザ 地域包括担当者) | 68名 |
| 2017/2/21 | 「見える事例検討会」と題し、新たな視点や問題の本質が見え、話の流れが俯瞰できて論点が明確になる、情報や議論の「見える化」を実践する新しい事例検討会開催 | 講 師: 八森 淳(つながるクリニック 院長) 大友 路子(つながるクリニック 相談室 室長) 事例提供者: 清田 みゆき(横浜市立大学附属病院福祉・継続相談室看護師) 世 話 人: 山岡 貴子(横浜市立大学附属病院外来師長) | 45名 |
| 2018/2/7 | 在宅移行後に貼付型フェンタニルの効果が低下し、痛みのコントロールに苦慮した1例 | 事例紹介: 佐藤勉 (横浜市立大学附属病院外科治療学 講師) 福井鮎子(横浜市立大学附属病院 看護師) 事例提供者: 清田 みゆき(横浜市立大学附属病院福祉・継続相談室看護師) 発 言 者: 栗原大輔(かまくらファミリークリニック院長) 磯田信子(公益財団法人 逗葉地域医療センター訪問看護ステーション管理者) 山田 薫(やさしい手返子居宅介護支援事業所 ケアマネジャー) | 39名 |
| 2019/2/6 | 在宅緩和ケアを望む患者と中壮年期の夫への在宅療養支援に関するカンファレンス | 事例紹介: 今井雄一(横浜市立大学附属病院 産婦人科学) 事例提供者: 小園千夏(横浜市立大学附属病院退院・在宅療養支援看護師) 発 言 者: 大塚裕一(医療法人裕徳会 港南台病院 副院長) 内山久美子(ケアーズ港南台訪問看護リハビリステーション管理者 看護師) 石島文子(フルライフ本郷台 ケアマネジャー) | 68名 |

がんボード 地域連携カンファレンス

ACTIVITY
2019-20
REPORT

| 開催日 | 症例 | | 参加人数 |
|-----------|--|---|------|
| 2019/10/2 | 嚥下機能障害のある患者の希望を支える地域連携 | 議題提供者:野崎 静代(横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター退院・在宅療養支援看護師) 議題紹介:和田 昂(横浜市立大学附属病院 耳鼻咽喉科 助教) 鈴木 乾・山本麻衣香(横浜市立大学附属病院 9-3病棟 看護師) 内山 唯史(横浜市立大学附属病院リハビリテーション部 言語聴覚士) 発言者:河合 敏(河合耳鼻咽喉科医院院長/横浜市耳鼻咽喉科医会会長/金沢区三師会 嚥下在宅チーム委員長/横浜市立大学非常勤講師) 廣瀬 裕介(横浜みなきリハビリテーション病院 リハビリテーション科科长) | 66名 |
| 2020/2/5 | 病状の受容過程のがん終末期患者と家族を支える地域連携 | 議題紹介:沖田 将人(みらい在宅クリニック 理事長 本院院長・横浜市立大学医学部臨床准教授) 中村 洋祐(みらい在宅クリニック 金沢 院長) 議題提供者:横山 美智(横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター 退院・在宅療養支援看護師) | 71名 |
| 2020/10/7 | 病院から在宅へ 介護・医療ニーズが高いがん終末期患者を支える地域との連携について ZOOMオンラインセミナーを実施 | 概論 病院から在宅へ 田中百合子 横浜市立大学附属病院患者サポートセンター看護師 講演1「看護小規模多機能型居宅介護サービスを利用したがん終末期患者について実態と課題」 加藤幸子 (有)在宅ナースの会看護統括責任者複合型サービスふくふく寺前管理者看護師 講演2「がん終末期患者に対する療養通所介護について実態と課題」 植田浩美 あったか訪問看護ステーション代表取締役看護師・介護支援専門員 講演3「在宅療養が困難ながん終末期患者の療養場所として施設紹介」 齊藤 純一 (株)アンビスホールディングス ICT対策本部 看護介護部 地域連携部 看護師 閉会挨拶 市川靖史 横浜市立大学大学院医学研究科がん総合医科学主任教授 | 52名 |
| 2021/2/3 | AYA世代におけるがん患者・家族の療養を支え、病院と地域の連携を考える 一予後宣告後、本人・家族の意向に沿って在宅看取りができた患者の事例から学ぶ ZOOMオンラインセミナーを実施 | ハツ橋こずえ(横浜市立大学附属病院 退院・在宅療養支援看護師) 布川 のぞみ(横浜市立大学附属病院 ソーシャルワーカー) 齋藤 薫 蜂巣 志乃(横浜市立大学附属病院 外科外来看護師) 畑 千秋(横浜市立大学附属病院 がん専門看護師 緩和ケアセンタージェネラルマネージャー) 林 茂也(みらい在宅クリニック 院長) 丹野 恵美(洋光台訪問看護ステーション 看護師) 閉会挨拶 市川靖史 横浜市立大学大学院医学研究科がん総合医科学主任教授 | 68名 |



第7回地域連携カンファレンスの様子(2019/10/2)



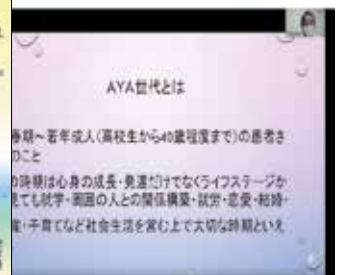
第8回地域連携カンファレンスの様子(2020/2/5)



第9回地域連携カンファレンスの様子(2020/10/7)



第10回地域連携カンファレンスの様子(2021/2/3)



横浜市立大学がんプロホームページでは、「横浜市立大学がんプロについて」「市民の方へ」「学生の方へ」「医療関係者の方へ」「受講案内」「セミナーなどお知らせ」の項目を掲載しています。



<http://www-user.uokohama-cu.ac.jp/~yganpro/>

がんプロ全国Eラーニングクラウド

全国Eラーニングクラウドは2017年より全国11拠点（81大学）で作成したがんゲノム医療、小児・AYA・希少がん、ライフステージに応じたがん医療の講義が構築されており、登録者はEラーニングにアクセス可能であり、がん医療の均てん化を推進するがん教育を学ぶことができます。（横浜市大がんプロホームページからアクセス可能）



多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン （全国e-learningクラウド対応）

選定件数11件（計81大学）

| No | 申請担当大学名 | 連携大学名 | 事業名 |
|----|----------|--|----------------------|
| 1 | 東北大学 | 山形大学、福島県立医科大学、新潟大学 | 東北次世代がんプロ養成プラン |
| 2 | 筑波大学 | 千葉大学、群馬大学、日本医科大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立県民健康科学大学、東京慈恵会医科大学、上智大学、星薬科大学、昭和大学 | 関東がん専門医療人養成拠点 |
| 3 | 東京大学 | 横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学、東京都立大学 | がん最適化医療を実現する医療人育成 |
| 4 | 東京医科歯科大学 | 秋田大学、慶応義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京薬科大学、弘前大学 | 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン |
| 5 | 金沢大学 | 信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学 | 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 |
| 6 | 京都大学 | 三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学 | 高度がん医療を先導するがん医療人養成 |
| 7 | 大阪大学 | 京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、和歌山県立医科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学 | ゲノム世代高度がん専門医療人の養成 |
| 8 | 岡山大学 | 愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、松山大学、山口大学 | 全人的医療を行う高度がん専門医療人養成 |
| 9 | 九州大学 | 福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学 | 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン |
| 10 | 札幌医科大学 | 北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学 | 人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン |
| 11 | 近畿大学 | 大阪市立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学 | 7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン |

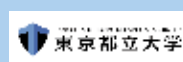
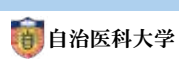
がんプロ全国Eラーニングクラウド

全国大学連携の拠点化、多職種の人材育成として全国の大学で統合された教育カリキュラムの中で、がんの均霈化教育を実施しています。

参画大学
11拠点81大学
（+ 17協力大学）



連携大学の教育コース 合同セミナー



連携大学の教育コース・合同セミナーについて

がん対策基本法（平成19年度施行）によりがん医療の均霑化が推進されている中、本事業において、ゲノム医療従事者養成については、東京大学、横浜市立大学、北里大学、首都大学東京が連携して教育コースを実施します。希少がん及び小児がん医療人材養成については、横浜市立大学、東邦大学、東京大学が連携して教育コースを実施、ライフステージ対応がん対策医療人材養成については、東邦大学、自治医科大学、東京大学が連携して教育コースを実施することを目標としています。

合同セミナー

本教育プログラムでは、市民・医療関係者の合同セミナーを実施し、最先端のがんに関するセミナー、海外招聘セミナーを開催し、がんプロ公開セミナーとして持続可能な多様性の調和教育につなげています。

2013年5月より、連携大学において遠隔同時中継により合同セミナーを開催し各大学の公開セミナーを共有し、大学間の連携を深めがん医療の均霑化に努めています。

連携大学の教育コース

| | |
|--------|---|
| 東京大学 | プレジション腫瘍学コース |
| 東邦大学 | AYA世代がん多職種連携マネジメントコース AYA世代がん診療コーディネーター養成コース（インテンシブ） |
| 自治医科大学 | 地域がん総合医学コース 地域がん医療支援コース（インテンシブ） |
| 横浜市立大学 | Next Generation Oncologist養成コース 次世代オンコロジー医療スタッフ養成インテンシブプログラム |
| 北里大学 | がん個別化医療専門医養成コース がん遺伝診療コース（インテンシブ） |
| 東京都立大学 | 量子イメージング技術者養成コース |

がんプロ大学院生研究発表会は例年、東京大学、横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学、首都大学東京の6大学が合同で実施されています。

今回は、6大学が連携して発表会を実施したことで、文部科学省の目的とする横断的教育として重要な成果を出しました。

毎月の連携大学の合同セミナーに加え、重要な研究活動を6大学が合同で発表することで、各大学から活発なディスカッションが行われています。

横浜市立大学 がんプロ大学院生発表者

| | 発表者名 | 所属 | タイトル |
|-----------|-------|----------|--|
| 2019/2/2 | 久保 博一 | 消化器腫瘍外科学 | 腹腔内洗浄液における遺伝子解析による膵癌患者の腹膜播種再発および予後予測 |
| 2020/2/22 | 鈴木 千穂 | 消化器腫瘍外科学 | 乳癌幹細胞におけるBRD4遺伝子の同定と機能の検証 |
| 2021/2/20 | 押 正徳 | 消化器腫瘍外科学 | In-Silico translational research を用いたヒト癌 Transcriptomeの臨床的意義 |

全国がんプロ協議会について

2011年に全国がんプロ協議会が設立され、FDのための教育合同フォーラム、市民公開講座、全国Eラーニング・クラウドの構築、がんプロ事業評価のための全国調査などによりよい教育を行うために各大学が連携・協力しながら様々な共同事業を行っています。

2020年2月4日に東京大学山上会館において2019年度全国がんプロ協議会 教育合同フォーラム（テーマ：小児・AYA・希少がんの人材育成）が開催されました。2021年2月5日にはCISCO Webexオンライン会議による2020年度全国がんプロ協議会 教育合同フォーラム（テーマ：希少がんの人材育成）が開催されました。本学からは、がんプロ拠点からの報告：希少がん診療・研究の特徴的な取組みとして「タイトル：神経内分泌腫瘍に対するPRRTの取組み」について代表者：市川靖史先生が発表されました。参加者は、文部科学省高等教育局医学教育課 課長はじめ全国がんプロ連携大学のメンバーが一同に参加しました。

| | 開催日 | テーマ・講師・演題 |
|------|---------------------|--|
| 第1回* | 2009/2/15 103名参加 | <p>テーマ：「がん治療最前線」</p> <p>Luka Milas, M.D., Ph. D., Division of Radiation Oncology, The University of Texas M D. Anderson Cancer Center, Houston Texas, USA</p> <p>「Research in Radiation Oncology at University of Texas M.D. Anderson Cancer Center: From the Laboratory to the Clinic」</p> <p>山田 滋（放射線医学総合研究所重粒子重医学センター病院）</p> <p>「重粒子線治療を用いたがん治療の現状」</p> <p>鄭 允文（横浜市立大学大学院医学研究科臓器再生医学）</p> <p>「固形臓器における組織幹細胞と癌幹細胞」</p> <p>千葉 由幸（インテンシブコース、災害医療センター皮膚科）</p> <p>「知っておきたい、皮膚がんのサイン（本当は怖い皮膚のできもの）」</p> <p>小岩 克至（横浜市立大学大学院医学研究科がんプロフェッショナル養成プラン特任助手）</p> <p>「皮膚がんとは？皮膚がんにならないために！皮膚がんになったら？」</p> <p>助川 明子（横浜市立大学医学部産婦人科）</p> <p>「知っておきたい、緩和ケアの基礎知識」</p> <p>小田切 一将（横浜市立大学大学院医学研究科がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）</p> <p>「知っておきたい、新しい放射線治療」</p> <p>皆川 由美子（横浜市立大学大学院医学研究科がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）</p> <p>「知っておきたい、女性のがんの放射線治療」</p> |
| | 2009/11/14 55名参加 | <p>テーマ：「在宅医療で求められる通信デバイスとは何か？」</p> <p>藤井 勇一（藤井クリニック院長）「在宅緩和ケアとその問題点」</p> <p>樽松 八平（独）情報通信研究機構新世代ワイヤレス研究センター推進室）</p> <p>「通信技術の進歩と医療分野への進出」</p> <p>林 孝平（綱島ホームケアクリニック院長）「在宅医療におけるユビキタス電子カルテの使用」</p> <p>パネルディスカッション「進歩する通信技術は、在宅がん緩和医療を支える医療者を助けられるか？」</p> |
| 第2回* | 2009/11/22 89名参加 | <p>テーマ：「知っておきたいがん治療・がん治療最前線」</p> <p>嶋田 和博（横浜市立大学大学院医学研究科がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）</p> <p>「乳がんの最近の動向と検診について」</p> <p>木村 準（横浜市立大学大学院医学研究科がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）</p> <p>「知って得する胃がん治療最前線」</p> <p>畑 千秋（横浜市立大学附属病院 看護師長）「がんの痛みとの付き合い方と上手な伝え方」</p> <p>Dr. Hideaki Ohnishi, Professor, Department of Psycho-Oncology, Saitama Medical University International Medical Center</p> <p>「Mental problems and psycho-oncological management in cancer treatment」</p> <p>Dr. Kenji Tamura, Director, Department of out-patient Center, National Cancer Center</p> <p>「Pharmacokinetic and Biomarkers in Oncology」</p> <p>Dr. Cathy Eng, M. D., F.A.C.P., Associate Professor, The University of Texas M D. Anderson Cancer Center, Department of Gastrointestinal Medical Oncology, Paradigm Development in Colorectal Cancer</p> <p>「Paradigm Development in Colorectal Cancer」</p> |

| | | |
|--------|--|---|
| | 2010/1/14 163 名 | <p>テーマ：「悪性腫瘍に対する中性子捕捉療法について-腫瘍細胞選択的な次世代粒子線治療をめざして」</p> <p>松村 明（筑波大学大学院 人間総合科学研究科疾患制御医学専攻 脳神経機能制御医学 教授）</p> |
| 第 3 回* | 2011/1/30 181 名 | <p>テーマ：「これからのがん治療 緩和医療との統合」</p> <p>宮城悦子（横浜市立大学附属病院 化学療法センター長・産婦人科） 「子宮頸がんの予防にむけて-横浜市立大学の取り組み-」</p> <p>田口康人（Obstetrical & Gynecological Associates of Stillwater） 「米国における婦人科がんスクリーニングの実際-米国産婦人科プライマリケアの立場から-」</p> <p>原田紳介（横浜市立大学医学部麻酔科学 がんプロ特任助教） 加藤大慈（横浜市立大学医学部精神科学 助教） 「緩和医療のいま」</p> <p>抗がん剤の立場から</p> <p>河俣真由美（がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）「大腸がんの最新の動向と治療」 広島幸彦（がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）「膵がんの最新の動向と治療」</p> <p>放射線治療の立場から</p> <p>糟谷健夫（がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）「放射線による緩和治療」 海津久（がんプロフェッショナル養成プラン博士課程）「先端放射線治療」</p> |
| 第 4 回* | 2012/1/15 225 名 | <p>テーマ：「乳がんの最新治療 横浜市立大学の取り組み」</p> <p>石川 孝（横浜市立大学附属市民総合医療センター乳腺・甲状腺外科 部長） 「乳がんの治療は今」</p> <p>佐武 利彦（横浜市立大学附属市民総合医療センター形成外科 准教授） 「乳がん手術後も美しく 再建術とリンパ浮腫対策・再建術について」</p> <p>前川 二郎（横浜市立大学附属病院形成外科 部長）「リンパ浮腫について」 光藤 健司（横浜市立大学医学部歯科口腔外科 准教授） 「乳がんの化学療法を滞りなく行うには・口腔ケアの重要性」</p> <p>瀬畑 喜子（神奈川県立がんセンター看護局 主任看護師・乳がん看護認定看護師） 「乳がん患者さんのパートナー 乳がん看護認定看護師のお仕事」</p> |
| 第 5 回 | 2012/2/10 166 名 | <p>テーマ：「緩和ケアの最新治療」</p> <p>小澤竹俊（めぐみ在宅クリニック 院長）「これからの在宅緩和について」 太田 周平（神奈川県立がんセンター 緩和ケア内科部長）「緩和ケア病棟の取り組み」 樽見 葉子（Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta 准教授） 「カナダでの緩和医療の現場から」</p> |
| 第 6 回* | 2013/2/17 194 名 | <p>テーマ：「がんと栄養～がんにかからないために、がんにかかってしまったら～」</p> <p>雁部 弘美（横浜市立大学附属病院栄養部）「横浜市の栄養部の役割」 川口美喜子（島根大学医学部附属病院 臨床栄養室 室長）「食べる喜びを支える」 大村 健二（山中温泉医療センター センター長）「がん患者の栄養管理」</p> |
| 第 7 回 | 2013/6/24 83 名 | <p>テーマ：「カナダ・アルバータ大学における緩和医療について」</p> <p>Prof. Sharon Watanabe, Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta 「Special Clinical Lecture: The Interface of Oncology and Palliative Care: an Albertan perspective」</p> |
| 第 8 回 | 2013/11/1 横浜市立大学 30 名 東京大学 13 名 東邦大学 2 名 合計 45 名 | <p>テーマ：「スイス・パーゼル大学における DOTATOC 治療について」</p> <p>Prof. Damian Wild, Division of Nuclear Medicine, University of Basel Hospital 「Special Clinical Lecture: DOTATOC for treatment of neuroendocrine, tumors – experience at the University of Basel Hospital, Switzerland」</p> |

| | | |
|-------|---|---|
| 第9回* | 2013/11/2 156名 | <p>テーマ：「RI 内用療法によるがんの放射線治療 - スイス・バーゼル大学の取り組みを中心に -」</p> <p>市川 靖史（横浜市立大学大学院医学研究科 臨床腫瘍科学 准教授）</p> <p>「がん治療の進歩と最近話題の神経内分泌腫瘍のことなど」</p> |
| | | <p>絹谷 清剛（金沢大学医薬保健研究域医学系核医学 教授）</p> <p>「総論 内用療法によるがん治療とは何か」</p> <p>小林 規俊（横浜市立大学附属病院 臨床腫瘍科・乳腺外科 助教）</p> <p>「治療をあきらめない - 海外で治療を受けるために」</p> <p>Prof. Damian Wild, Division of Nuclear Medicine, University of Basel Hospital</p> <p>「スイス・バーゼル大学における神経内分泌腫瘍の治療法」</p> <p>特別発言：患者様の代表</p> <p>総括発言：今村 正之（関西電力病院顧問 京都大学名誉教授）</p> |
| | 2014/9/26 33名 | <p>薬物療法ランチョンセミナー</p> <p>テーマ：MD Anderson Cancer Center について</p> <p>Dr. Scott Kopetz, Department of Gastrointestinal Medical Oncology, University of Texas, MD Anderson Cancer Center</p> |
| 第10回 | 2014/9/26 横浜市立大学34名 東京大学11名 東邦大学3名 合計48名 | <p>テーマ：「大腸がんの分子生物学的病期分類とその臨床応用」</p> <p>Dr. Scott Kopetz, Department of Gastrointestinal Medical Oncology, University of Texas, MD Anderson Cancer Center</p> <p>Special Clinical Lecture: Clinical Implementation of Molecular Classification of Colorectal Cancer</p> |
| | 2014/11/5 横浜市立大学60名 東邦大学11名 自治医科大16名 合計87名 | <p>テーマ：「がん診療エキスパートのための癌性疼痛コントロールバージョンアップ講座」</p> <p>樽見 葉子（Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta 准教授）</p> <p>「Special Clinical Lecture: Overtreatment of pain」</p> |
| 第11回* | 2014/11/29 93名 | <p>テーマ：「がん在宅緩和ケアを考える-より良い“生”の全うのために」</p> <p>横浜の緩和医療</p> <p>助川 明子（横浜市立大学産婦人科学）「がん終末期をどのように過ごすか？ - 緩和ケアの役割」</p> <p>国兼 浩嗣（横浜市立市民病院緩和ケア内科部長）「病院の終末期医療－緩和ケア病棟の医師から」</p> <p>小原 健（横浜高島診療所所長）「在宅の終末期医療－在宅療養支援診療所医師から」</p> <p>特別講演 「住み慣れた町で、馴染みの人に囲まれて、自分の望むように生を全うするために」</p> <p>市原 美穂 NPO 法人 ホームホスピス宮崎 理事長</p> |
| 第12回 | 2015/6/16 横浜市立大学84名 東京大学11名 東邦大学10名 自治医科大5名 合計110名 | <p>テーマ：「症例からみるがん医療の漢方サポート」</p> <p>林 明宗（神奈川県立がんセンター漢方サポートセンター・東洋医学科脳神経外科 部長）</p> |
| 第13回 | 2015/11/4 横浜市立大学111名 東邦大学6名 自治医科大10名 合計127名 | <p>テーマ：「緩和医療における鎮静と安楽死の問題」</p> <p>樽見 葉子（Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta 准教授）</p> |
| | 2015/11/17 25名 | <p>緩和ケアランチョンセミナー</p> <p>テーマ：「The History of Palliative Care: What can we learn for the future?」</p> <p>Prof. Sharon Watanabe, Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta</p> |
| 第14回 | 2015/11/17 横浜市立大学39名 東邦大学2名 自治医科大6名 合計47名 | <p>テーマ：「癌性疼痛の最新の治療法と評価法 Assessment and Management of Complex Cancer Pain」</p> <p>Prof. Sharon Watanabe, Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta</p> |

| | | |
|------|--|--|
| | 2016/2/26 14名 | <p>第87回栄養療法勉強会</p> <p>テーマ：「臨床栄養学、代謝学から見た骨格筋」</p> <p>Skeletal Muscle in Clinical Nutrition and Metabolism</p> <p>Dr. Vickie E Baracos (Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta 教授)</p> |
| | |   |
| 第15回 | 2016/7/6 横浜市立大学 40名 東邦大学4名 自治医科大学 4名 合計48名 | <p>テーマ：「これからのがん医療－エビデンスやガイドラインにとらわれないがん医療－」</p> <p>勝俣 範之 (日本医科大学武蔵小杉病院・腫瘍内科教授・部長)</p> |
| | |   |
| 第16回 | 2016/9/15 227名 | <p>テーマ：「がんになったとき、あなたの大切な子どもに何を知らせますか？～がんになった親をもつ子どもケアを考える～」</p> <p>Ms. Martha Aschenbrenner (MD Anderson Cancer Center Palliative care unit manager)</p> |
| | |   |

| | | |
|-------------|--|--|
| <p>第17回</p> | <p>2016/11/8 横浜市立大学 42名 自治医科大学 16名 合計58名</p> | <p>テーマ：「緩和医療の対象者をスクリーニングし状態を正しくアセスメントすることの重要性」</p> <p>The role of the screening and standardized assessment in palliative care</p> <p>樽見 葉子（Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, University of Alberta 准教授）</p> <div data-bbox="499 488 957 775"> </div> <div data-bbox="1018 441 1294 819"> </div> |
| <p>第18回</p> | <p>2017/2/22 68名</p> | <p>テーマ：「マインドフルネスとがん患者のQOL向上」</p> <p>熊野 宏昭（早稲田大学人間科学学術院教授、人間科学学術院副学術院長、人間総合研究センター所長、応用脳科学研究所所長）</p> <div data-bbox="499 1014 957 1335"> </div> <div data-bbox="1018 967 1300 1361"> </div> |

| | | |
|------|--|---|
| 第19回 | 2017/3/24 45名 | <p>テーマ：「BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）results in Finland and future plans」</p> <p>Dr. Heikki Joensuu, Professor Research director of cancer center, Helsinki University Hospital</p>   |
| 第20回 | 2017/7/10 横浜市立大学 42名 東邦大学5名 自治医科大学 7名 合計54名 | <p>テーマ：「Precision Medicineとは癌の遺伝子変異と治療標的を同定するだけのことか」</p> <p>高部 和明 (Roswell Park Cancer Institute) Professor of Oncology, Alfiero Foundation Chair and Clinical Chief of Breast Surgery Leader of Breast Program and Breast Disease Site, and Breast Oncology Fellowship Program Director</p>   |
| 第21回 | 2017/11/7 横浜市立大学 39名 東京大学9名 東邦大学3名 自治医科大学 19名 合計67名 | <p>テーマ：「2016年6月以降、カナダの終末期ケアの現場に何が起きたか」</p> <p>樽見 葉子 (Clinical Professor, Division of Palliative Care Medicine Department of Oncology, University of Alberta, Canada)</p>   |

| | | |
|--------------|---|---|
| <p>第22回*</p> | <p>2018/1/22 合 計 53 名 (学内23名, 学外30名)</p> | <p>テーマ：「よりよいがん医療をうけるには」</p> <p>上野直人 (MDアンダーソンがんセンター 乳腺腫瘍内科部門教授)</p> <div data-bbox="493 477 997 815">  </div> <div data-bbox="1038 441 1302 819">  </div> |
| <p>第23回</p> | <p>2018/3/16 横浜市立大学 32名 東京大学4名 自治医科大学 4名 北里大学5名 合計45名</p> | <p>テーマ：「がんゲノム研究からがんゲノム医療への応用と実践」</p> <p>高阪 真路 (東京大学大学院医学研究科ゲノム医学講座 特任助教)</p> <div data-bbox="493 1028 997 1346">  </div> <div data-bbox="1038 983 1302 1346">  </div> |
| <p>第24回</p> | <p>2018/7/17 63名</p> | <p>テーマ：「治療と仕事の両立支援－診療報酬改訂にあわせて」</p> <p>桜井なおみ (一般社団法人CSRプロジェクト代表理事, キャンサーソリューションズ (株) 代表取締役社長)</p> <div data-bbox="493 1565 1018 1910">  </div> <div data-bbox="1038 1527 1302 1901">  </div> |

| | | |
|-------|--|--|
| 第25回 | <p>2018/11/7 横浜市立大学 64名 自治医科大学 3名 首都大学東京 11名 東邦大学 1名 合計79名</p> | <p>テーマ：「最新のがん慢性疼痛ガイドラインについて」</p> <p>樽見 葉子 (Clinical Professor, Division of Palliative Care Medicine Department of Oncology, University of Alberta, Canada)</p>   |
| 第26回* | <p>2018/12/3 51名</p> | <p>テーマ：「がんになった時の身近なサポーター」</p> <p>緒方 真子 (がん患者会コスモス前代表、横浜市「緩和ケアに関する検討会」委員) 渡邊 眞理 (医学部看護学科 がん看護学 教授) 齋藤 幸枝 (附属病院看護部 がん性疼痛看護認定看護師)</p>   |
| 第27回 | <p>2019/5/21 横浜市立大学 49名 自治医科大学 11名 首都大学東京 1名 合計61名</p> | <p>テーマ：「重粒子線治療の概要 先進医療から保険診療へ」</p> <p>加藤 弘之 (神奈川県立がんセンター 放射線治療科部長(重粒子線治療部門))</p>   |

* は、横浜市立大学がんプロ市民公開講座

| | | |
|-------------|--|--|
| <p>第28回</p> | <p>2019/7/3 横浜市立大学 107名 自治医科大学 13名 合計120名</p> | <p>テーマ：「チームで行うACP（アドバンス・ケア・プランニング）」 司会進行：渡邊眞理（横浜市立大学医学部看護学科 がん看護学教授） 演 者：小迫 富美恵（横浜市立市民病院 がん看護専門看護師） 事例提供：畑 千秋（横浜市立大学附属病院 がん看護専門看護師） 奥山 裕子（横浜市立大学附属病院 看護師） 閉会挨拶：市川 靖史（横浜市立大学大学院医学研究科 がん総合医科学 主任教授）</p>   |
| <p>第29回</p> | <p>2019/10/21 横浜市立大学 36名 自治医科大学 4名 北里大学 2名 東京都立大学 1名 合計43名</p> | <p>テーマ：「プレジジョンメディスン クリニカルシーケンスの次は-米国における、がん医療の実際」 高部 和明（Professor & Alfiero Foundation Chair and Clinical Chief of Breast Surgery Roswell Park Comprehensive Cancer Center Professor of Surgery, Division of Surgical Oncology, Department of Surgery University at Buffalo, The State University of New York, Jacobs School of Medicine and Biomedical Sciences)</p>   |
| <p>第30回</p> | <p>2019/11/13 34名</p> | <p>テーマ：「持続可能な最新のがん緩和医療」 Sharon Watanabe（Professor and Director, Division of Palliative Care Medicine, Department of Oncology, Faculty of Medicine and Dentistry, University of Alberta Director, Department of Symptom Control and Palliative Care, Cross Cancer Institute)</p>   |

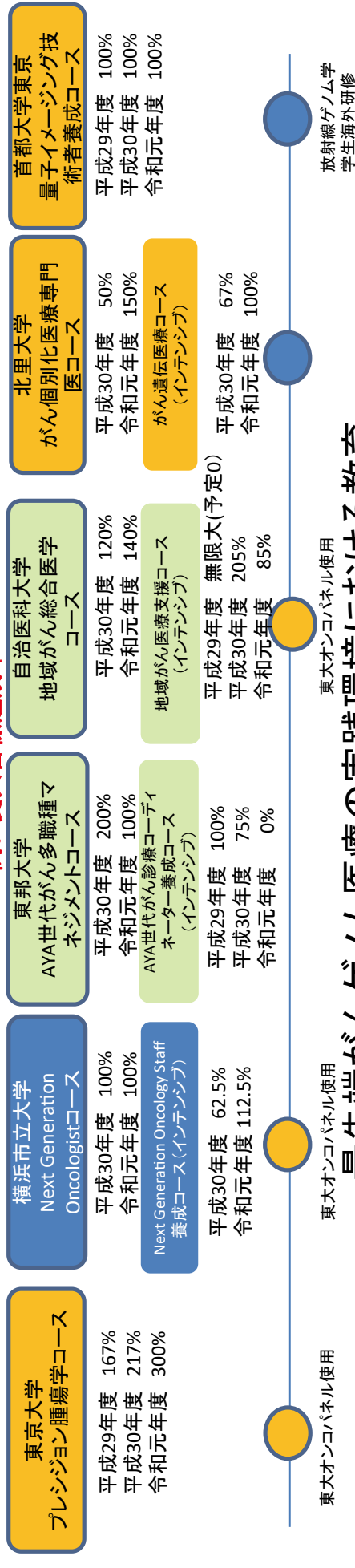
| | | |
|-------------|---|--|
| <p>第31回</p> | <p>2020/8/5 横浜市立大学 40名 東京大学3名 自治医科大学 5名 北里大学8名 東邦大学3名 その他6名 合計65名</p> | <p>テーマ：「がんサバイバーと共に歩む」</p> <p>近藤まゆみ（北里大学病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師，北里大学 臨床教授） 畑 千秋（横浜市立大学附属病院 がん看護専門看護師） 場所：連携大学とのZOOMオンラインセミナーを実施</p>   |
| <p>第32回</p> | <p>2020/9/11 横浜市立大学 28名 東京大学5名 自治医科大学 16名 東京都立大学 7名 東京医科大学 2名 合計58名</p> | <p>テーマ：「Precision Medicine 2020: Predictive biomarkerを探せ」</p> <p>高部 和明（Professor & Alfiero Foundation Chair and Clinical Chief of Breast Surgery Roswell Park Comprehensive Cancer Center Professor of Surgery, Division of Surgical Oncology, Department of Surgery University at Buffalo, The State University of New York, Jacobs School of Medicine and Biomedical Sciences） 場所：連携大学とのZOOMオンラインセミナーを実施</p>   |
| <p>第33回</p> | <p>2020/12/14 横浜市立大学 31名 東京大学6名 自治医科大学 14名 東京都立大学 12名 東邦大学1名 北里大学2名 国立がん研究 センター1名 合計67名</p> | <p>テーマ：「がんゲノム医療の現況と展望」</p> <p>講師：高阪 真路（国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野 ユニット長） 場所：連携大学とのZOOMオンラインセミナーを実施</p>   |

文部科学省
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)養成プラン
進捗状況報告書(中間評価)

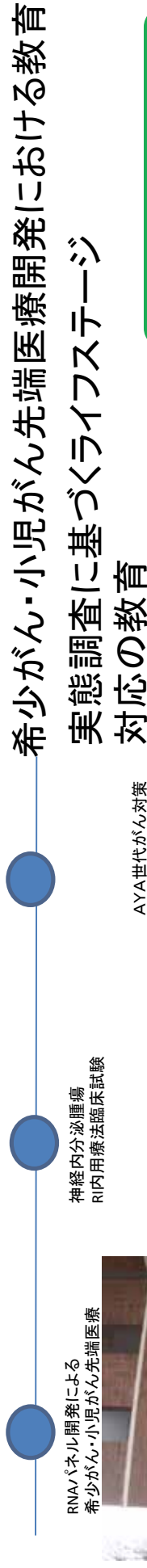
取組大学：東京大学（連携大学:横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学、首都大学東京）
取組名称：がん最適化医療を担う医療人育成

○取組概要 近年のめざましい医学の進歩は、がん医療に新たな革新技術をもたらしているが、その一方で、それらが医療現場で個々の多様な状況に応じて適切に実践されているとは言い難く、このような問題に対して社会からの批判も増大している。このようながん医療の課題に解決するために、本事業では、人材不足が顕在化しつつあるゲノム医療、希少がんおよび小児がん医療、ライフステージ対応がん対策については、これらの各領域で既に先駆的な取り組みを行っている6大学が、その基盤を利用して、全国モデルを形成すべく人材育成を拡大する。それとともに、これら以外の新たなアンメットニーズにも対応することができる人材も育成する。これらの取組においては、多職種連携によるチーム医療を基本とするともに、医療全体を俯瞰できる能力の涵養も重視し、多様かつ複雑な専門医療が一人一人の個々の状況に応じて集約化されるがん医療の最適化が実現されることを目指す。

高い受入目標達成率



最先端がんゲノム医療の実践環境における教育



東京大学における
がんゲノム医療の
情報発信

東京大学医学系研究科に
「統合ゲノム学」が新設される

がん最適化医療を開拓する指導的人材の輩出

「がんプロフェッショナル養成推進委員会」所見

令和 2 年 2 月 2 1 日

1. 事業の概要

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命と健康にとって重大な問題となっている現状から、国民に対する最適で安心・安全ながん医療を提供するために、がん専門医療人材の養成が期待されている。

特に、近年、新たなニーズとして、がんゲノム医療の推進、希少がんや小児がんへの対応、AYA（Adolescent and Young Adult）世代や高齢者等のライフステージに応じたがん対策が求められており、これらの新たなニーズに対応するため、がん医療に携わる専門的な知識・技術を有する医師やその他医療従事者を養成することが必要である。

本事業は、がんに係る多様な新ニーズに対応するための優れたがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）を養成することを目的として、平成 29 年度より、複数の大学との連携による「がん医療人材養成拠点」を整備して、各大学の特色を活かした体系的な教育プログラムを構築する優れた取組を支援している。

2. 中間評価で確認できた成果

本委員会では、今年度 3 年目を迎えた本事業における取組の進捗状況や成果を検証し、評価結果を各大学にフィードバックすることにより、今後の事業の推進に役立てることを目的として中間評価を行った。

教育プログラム・コースの構築状況については、令和元年 10 月末時点で、本事業の実施により新たに開設された 378 の教育プログラム・コースにおいて、医師を始めとする医療従事者や大学院生など、それぞれの能力に応じた多彩な教育プログラム・コースが展開され、受講生の数は、正規課程とインテンシブコースの合計で 17,000 人を超えている。

また、多くの拠点において、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開しており、当初の目標を上回る教育プログラム・コースの開設や学生の参加を得られ、事業責任者のリーダーシップの下、連携大学が一体となって事業に取り組んでいる。

特に、全国がんプロ e-learning クラウド等を活用した教材コンテンツの拡充による教育コースの充実と新たな受講者の獲得に努めていることは大きな成果として評価できる。

なお、各取組により、養成人材の分野や事業計画、連携大学の有無、地域の実情等がそれぞれ異なることから、今回の中間評価は各取組の内容を比較して優劣をつけるものではなく、各取組が掲げた当初計画の進捗状況や本事業の目標が達成できるか否かを評価したものであることに御留意いただきたい。

3. 現状の課題

一方で、取組によっては例えば下記①～③のような課題もある。

- ①プログラム・コースによって、受講者数が目標に達していない大学も見られ、有効な改善策が講じられていない。
- ②連携大学毎の取組内容に差があるなど、拠点校による連携大学へのサポートや有機的な連携が十分でない。
- ③本事業の成果を他大学や社会に対して広く普及・促進させるための広報戦略や分かりやすい情報発信が十分でない。

4. 今後の期待

本事業の趣旨に沿った優れた人材を多数輩出するため、今後、各大学には、今回の中間評価結果における本委員会のコメントや、以下に記載の事項等を踏まえ、取組の一層の推進を期待する。

- ①修了者の多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。
- ②他大学への普及・促進を見据えた、新たな知見を含む教材・マニュアル等の充実を図ること。
- ③ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと。
- ④広報戦略として、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと。
- ⑤補助期間終了後の事業の継続のための具体的かつ実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の
取組概要及び中間評価結果

| | |
|--|----------------------------------|
| 整理番号 | 4 |
| 申請担当大学名 | 東京大学 |
| (連携大学名) | (横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学、首都大学東京) |
| 事業名 | がん最適化医療を実現する医療人育成 |
| 事業推進責任者 | 医学系研究科長 齊藤 延人 |
| 取組概要 | |
| <p>近年のめざましい医学の進歩は、がん医療に新たな革新技術をもたらしているが、その一方で、それらが医療現場で個々の多様な状況に応じて適切に実践されているとは言い難く、このような問題に対して社会からの批判も増大している。このようながん医療の課題に解決するために、本事業では、人材不足が顕在化しつつあるゲノム医療、希少がんおよび小児がん医療、ライフステージ対応がん対策については、これらの各領域で既に先駆的な取り組みを行っている6大学が、その基盤を利用して、全国のモデルを形成すべく人材育成を拡大する。それとともに、これら以外の新たなアンメットニーズにも対応することができる人材も育成する。これらの取組においては、多職種連携によるチーム医療を基本とするとともに、医療全体を俯瞰できる能力の涵養も重視し、多様かつ複雑な専門医療が一人一人の個々の状況に応じて集約化されるがん医療の最適化が実現されることを目指す。</p> | |
| 中間評価結果 | |
| <p>(総合評価) A</p> <p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p> | |
| <p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】</p> <p>○目標に沿った受講者受入を達成するとともに、学位論文の質の向上を目的として事業参加大学の学生が参加できる学生研究発表会を毎年開催し、研究能力の向上を図っている。</p> <p>○遠隔会議システムを用いた大学連携による合同セミナーをアグレッシブに開催し、その内容が全国のがんプロ学生にも有用と考えられ場合にはe-learningクラウドに収載して全国に配信、普及している。</p> <p>【改善点】</p> <p>●開発したがんゲノムパネルの臨床試験の実施と人材育成に関する他大学への成果普及との関係性を明確に示すべきである。</p> <p>●がんゲノム医療のエキスパートパネルには連携6大学のうち3大学のみ参加であり、その他大学との連携を深めて、レベルの均てん化を図る必要がある。</p> <p>●本事業で養成された人材に対する教育効果を直接的に評価するための適切な評価指標の導入が望まれる。</p> | |



問い合わせ先

公立大学法人横浜市立大学大学院医学研究科

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9（がん総合医科学内）

TEL 045-787-2623 FAX 045-787-2740

E-mail: ganpro@yokohama-cu.ac.jp

Hp: <http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yganpro/>

●JR「新杉田」、京浜急行「金沢八景駅」より金沢シーサイ
ドライン「市大医学部駅」下車徒歩3分

2021年3月発行